

**東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路）
～ 埋立部と棧橋部が初めて繋がる ～
～ 埋立/棧橋接続部 渡り桁第1号の架設完了 ～**

記者発表資料

国土交通省は、我が国航空ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』を平成22年10月の滑走路供用開始をめざし、24時間365日の昼夜連続施工により最速で工事を進めています。

このうち、埋立/棧橋接続部（以下、「接続部」という。）において、埋立部と棧橋部をつなぐ『渡り桁』（第1号）の架設が、平成21年9月29日に行われ、埋立部と棧橋部が初めて繋がりました。これにより、現羽田空港から棧橋部を結ぶ北側の場周道路の架設等が完了していることから、現羽田空港から棧橋部及び埋立部への陸上アクセスが可能となりました。

渡り桁は、長さ15m、幅員1.5mのプレキャストコンクリート桁で、273本中10本の架設が完了しました。架設後には、幅員方向にPC鋼線を挿入し緊張をかけることで、桁を一体化させます。

今後は、引き続き、接続部護岸近傍の棧橋部ジャケットの据付、棧橋部と接続する「渡り桁」の架設及び「伸縮装置」を設置する工事を行います。

【参考】接続部は、全長(約430m)に渡って滑走路直角方向に打設される2列の鋼管矢板(外壁部:φ1,600)、それと直角に滑走路平行方向に打設される25列の鋼管矢板(隔壁部:φ1,600)、及び鋼管矢板頂部に構築される頂版コンクリートで一体化した「鋼管矢板井筒護岸」を基本構造とし、その上部に航空機荷重を支え、かつ消波機能を有するスリット柱φ1,200(スリット間隔600mm)とPC桁を用いた「上部構造」、さらに棧橋部との間を「渡り桁」及び「伸縮装置」で接続する構造としており、埋立部と棧橋部ジャケットという異なる構造を一体的に結びつける重要な構造物となります。

・プレキャストコンクリート桁：あらかじめ工場において製作されたコンクリート桁

平成21年10月22日（木）

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

同時発表記者クラブ

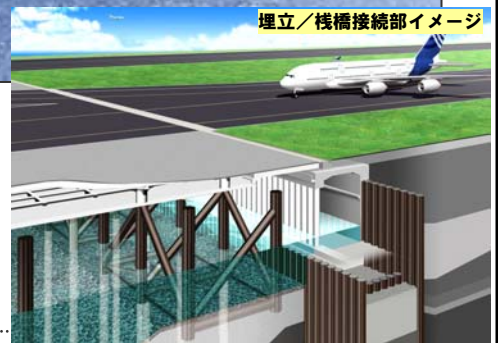
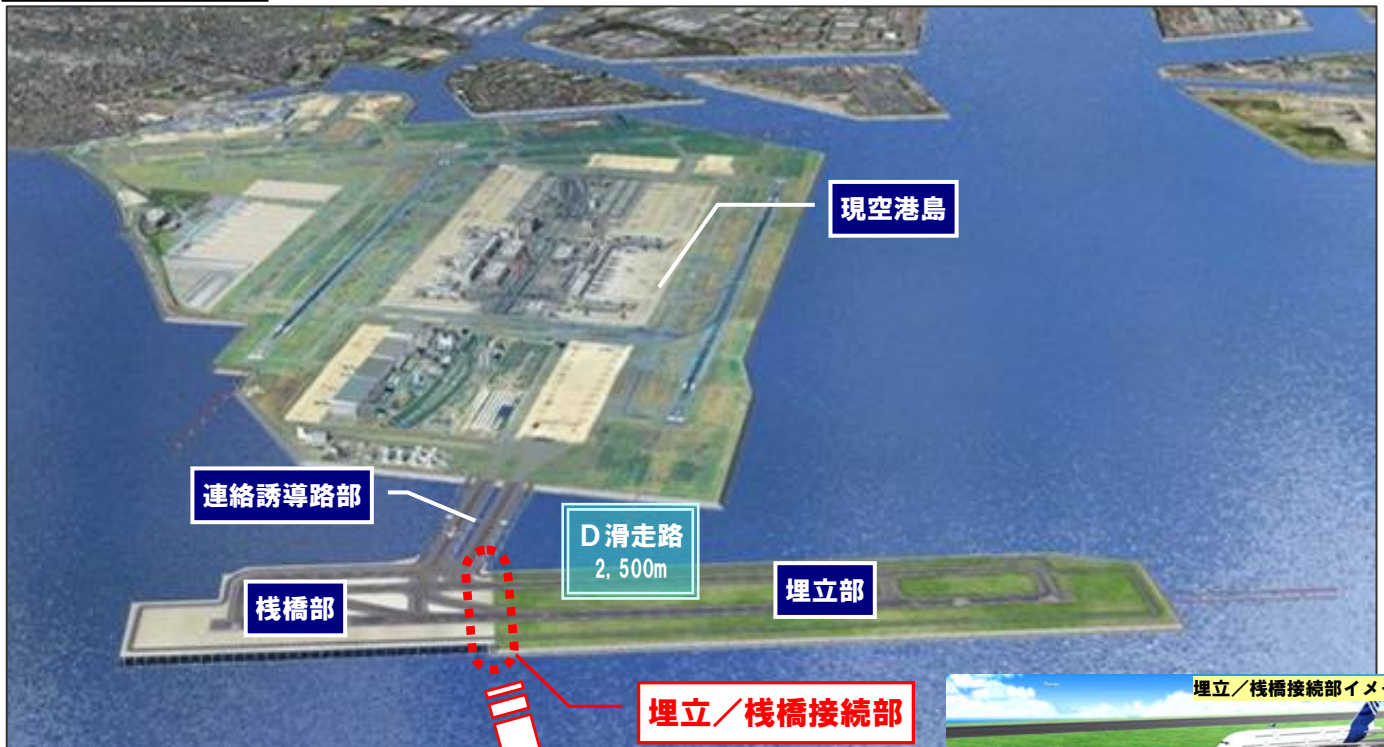
竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会
都庁記者クラブ 千葉県政記者クラブ 東京航空記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 D滑走路プロジェクト推進室 押田・三浦・村上
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7メンテナンスセンターアネックス5階
電話 03-5756-6580
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

■埋立／棧橋接続部 概要

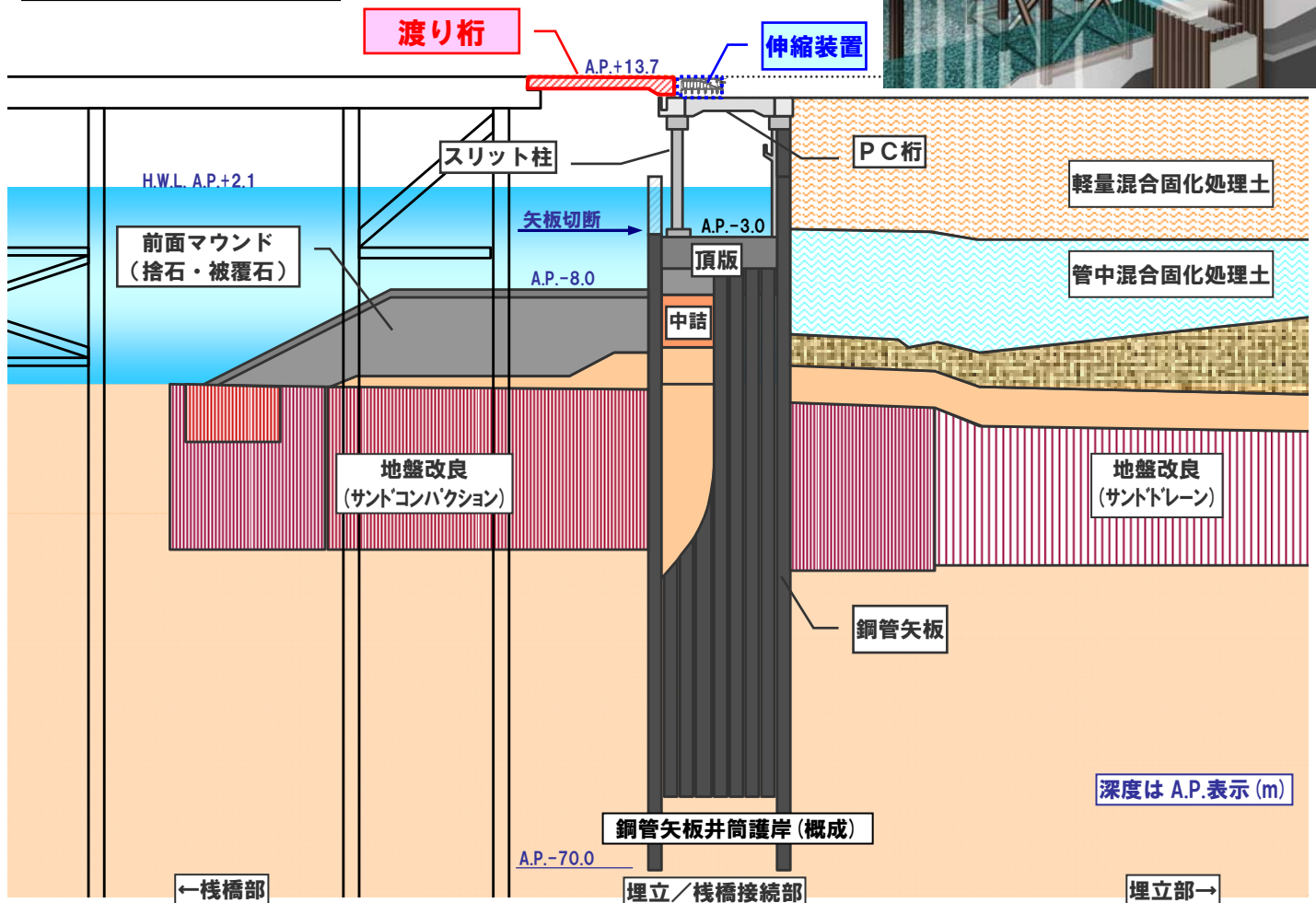
東京国際空港全体図



埋立／棧橋接続部イメージ

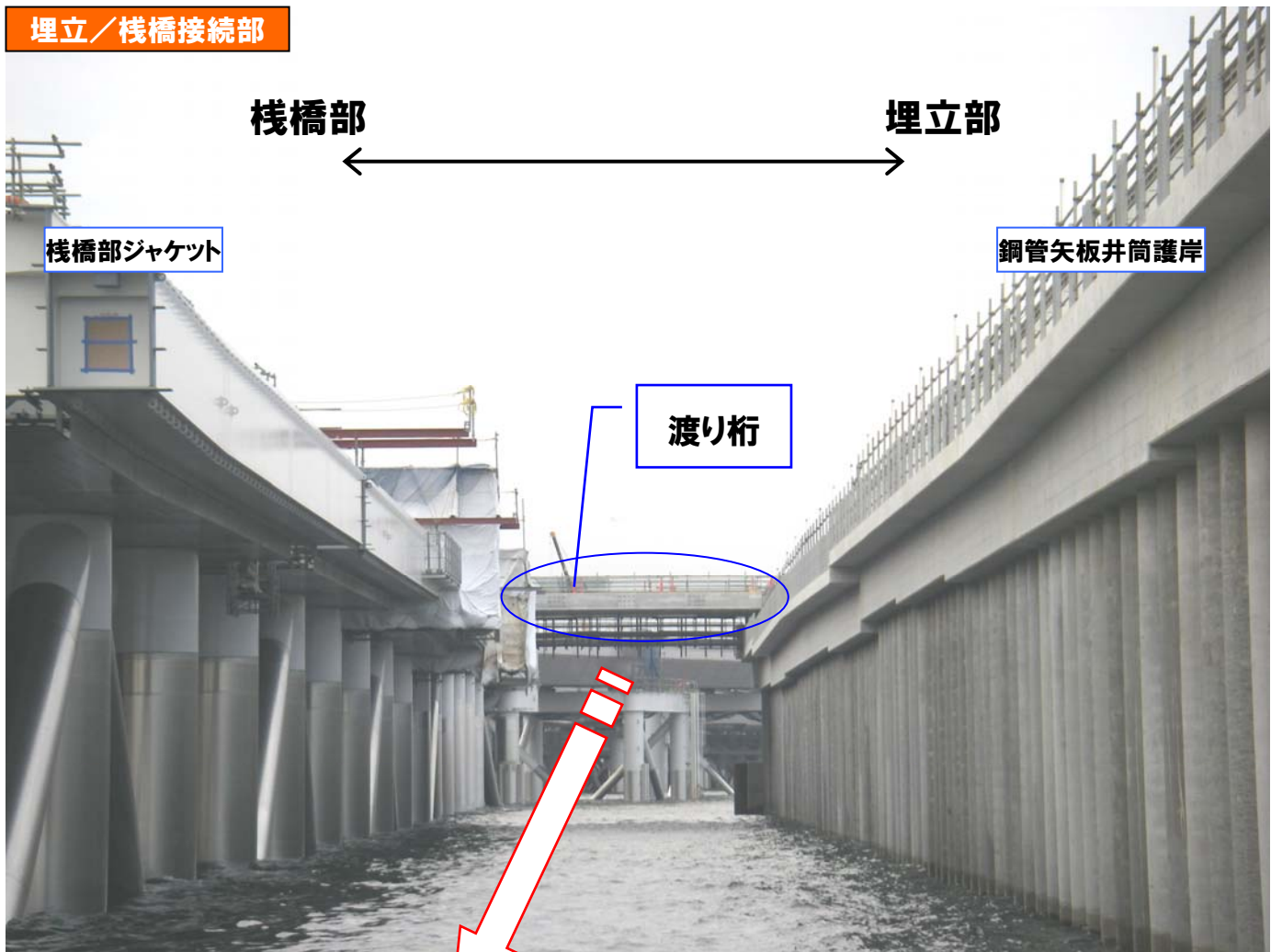
※平成 21 年 9 月 29 日
渡り桁 (第 1 号) 架設完了

埋立／棧橋接続部 断面図



■埋立／栈橋接続部 施工状況

埋立／栈橋接続部



渡り桁設置状況



渡り桁架設状況



- ※ 幅 1.5m×長さ 15mの PC 桁を 10 本架設し、PC 鋼線で横締めすることにより、一つの渡り桁が完成する。
- ※ 渡り桁架設については、航空制限のため、夜間施工となる。